

## 実践事例（１）

### 第１・２学年 国語科 ～バランスよく直接指導・間接指導を行う工夫～

#### １ はじめに

本学級は、１年生１名、２年生２名、計３名の複式学級である。どの児童も意欲的に学習に取り組んでいるが、全体的に読む力の定着に課題が見られ、集中力の持続も難しい。そこで、これらの課題に対応するために、次のことに重点を置いた指導を行った。

- (１) 単元の組み合わせの工夫
- (２) スムーズな活動を目指した間接指導の工夫
- (３) 直接指導を効率よく行う工夫

#### ２ 実践例

##### (１) 単元名

第１学年	第２学年
ちがいをかんがえてよもう 「どうぶつの赤ちゃん」	知っていることとつなげて読もう 「おにごっこ」

##### (２) 単元目標（評価規準）

第１学年	第２学年
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 動物の赤ちゃんの様子や成長過程に関心を持ち、進んで文を読もうとしている。 (関心・意欲・態度)</li><li>◎ 時間的な順序や事柄の順序を考えながら内容の大体を読み、理解している。(読む)</li><li>○ 文章から大事な言葉や文を書き抜いて、自分の思いをまとめている。(読む)</li><li>○ 敬体で書かれた文章を理解している。 (言語)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 自分の知識や体験と結びつけながら説明文を読もうとしている。(関心・意欲・態度)</li><li>◎ 身近な遊びを説明している文章を説明の順序に従って読み、書かれている内容を整理している。(読む)</li><li>○ 自分の経験と文章の内容を結び付けて読み、自分の思いや考えをまとめている。(読む)</li><li>○ 人の動きを表す言葉を理解している。 (言語)</li></ul>

##### (３) 単元の指導計画

第１学年(全12時間)		第２学年(全12時間)	
時間	学習活動	時間	学習活動
1	○ 本の読み聞かせの感想をまとめ、「どうぶつの赤ちゃん」を読むときの視点を知るとともに、学習の見通しをもつ。	1	○ 全文を読み、「始め・中・終わり」の文章の構成をつかむとともに、学習の見通しをもつ。

1	○ 全文を読み、二つの問いについて読み取っていくことを知る。	1	○ 第1段落から二つの問いを読み取る。
1	○ ライオンの赤ちゃんが生まれたときの様子をまとめる。	1	○ 第2段落を読み、一つ目の遊び方とそのわけをまとめる。
1 (本時)	○ しまうまの赤ちゃんが生まれたときの様子を読み取り、ライオンの赤ちゃんとの違いを見付ける。	1 (本時)	○ 第3段落を読み、二つ目の遊び方とそのわけをまとめる。
1	○ ライオンの赤ちゃんが育っていくときの様子をまとめる。	1	○ 第4段落を読んで、三つ目の遊び方とそのわけをまとめる。
1	○ しまうまの赤ちゃんが育っていくときの様子をまとめ、ライオンの赤ちゃんとの違いを見付ける。	1	○ 第5段落を読んで、付け足した遊び方とそのわけをまとめる。
1	○ カンガルーの赤ちゃんが生まれたときの様子をまとめ、ライオンやしまうまの赤ちゃんと比較する。	1	○ 第6段落を読んで、これまでに書かれていることのまとめの部分であることをつかむ。
1	○ カンガルーの赤ちゃんが育っていくときの様子をまとめ、ライオンやしまうまの赤ちゃんと比較する。	1	○ よくする鬼ごっこの遊び方を振り返り、どの遊び方にあてはまるのか、また、工夫していることを話し合う。
2	○ 好きな動物の赤ちゃんについて調べてカードにまとめる。	2	○ オリジナルおにごっこを考え、ルールの工夫を書く。(考えた遊びを体育科授業で実際に行う。)
2	○ カードをもとに、調べた動物の赤ちゃんについて紹介文を書く。 ○ 学習を振り返る。	2	○ 遊びを振り返り、遊び方やルールについて変更したところを書き直す。 ○ 学習を振り返る。

#### (4) 本時の指導

第1学年			第2学年		
(1) ねらい ○ しまうまの赤ちゃんの生まれたばかりの様子を読み取り、ライオンの赤ちゃんとの違いを見付けることができる。			(1) ねらい ○ つかまらない条件を決めた遊び方とその理由についてまとめることができる。		
(2) 準備物 ワークシート、写真、短冊			(2) 準備物 ワークシート、短冊		
主な指導○と評価◎	学 習 活 動	わたり	学 習 活 動	主な指導○ 評価◎	
○ 前時の活動を想起させ、課題解決の方法をつかませる。	1 学習のめあてを確認し、しまうまの赤ちゃんについて書かれている部分を音読する。	12 12	1 漢字の復習をし、音読をする。	○ 指示に従って自分たちで答え合わせや音読を進めさせる。	
	しまうまの赤ちゃんとライオンの赤ちゃんには、どんなちがひがあるでしょう。				

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワークシートにまとめたことを短冊に書き写させる。</li> <li>○ 適切な写真を選ばせ、短冊に貼らせる。</li> <li>◎ 視点に合う文章を読み取り、表にまとめることができたか。 【ワークシート】</li> </ul>	<p>2 生まれたばかりのしまうまの赤ちゃんの様子をまとめる。</p>	13	13	<p>2 学習のめあてを確認し、「遊び方」と「わけ」を表した部分をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>二つ目はどんなあそび方でしょう。なぜそのようなあそび方をするのでしょうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「遊び方」が書かれている部分と「わけ」の部分に線を引かせ、二つの問の答えを区別させる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ライオンの赤ちゃんについて読み取ったことと比較しやすいように、短冊を対応させて黒板に貼らせる。</li> <li>○ 提示した表現方法に沿って、ライオンとしまうまの赤ちゃんの違いを述べさせる。</li> <li>◎ ライオンの赤ちゃんとしまうまの赤ちゃんの違いを言い表すことができたか。 【発言】</li> </ul>	<p>3 生まれたばかりのしまうまの赤ちゃんの様子とライオンの赤ちゃんを比べて違いを見付ける。</p>	10	10	<p>3 「わけ」を短冊に分けて書き、問いに対する答えのまとめ方を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 短冊1枚につき一文のみ書くこととし、文末を「～から」「～ため」と表現させる。</li> <li>○ 「遊び方」に対する最も適切な理由の組合せを検討させた上で、ワークシートにまとめさせる。</li> <li>◎ 「わけ」を適切に書き抜くことができたか。 【短冊カード・発表】</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章問題に取り組みせることで、本時の学習内容を確認させる。</li> </ul>	<p>4 学習した範囲についての文章問題を解く。</p>	8	8	<p>4 考えたまとめ方について話し合い、まとめの言葉を完成させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「こうすることで」という表記に着目させ、まとめの部分であることを捉えさせる。</li> <li>◎ 問いに対する答えを見付けることができたか。 【発言・ワークシート】</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 次時の学習に向けて意欲を高める。</li> </ul>	<p>5 次時の学習の確認をする。</p>	2	2	<p>5 次時の学習の確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 次時の学習に向けて意欲を高める。</li> </ul>

### 3 考察

#### (1) 単元の組合せの工夫

年間指導計画を作成する際、1年生と2年生の類似教材を組み合わせることで、単元構成や毎時間の授業の組立がしやすくなる。

〈1年〉

1月 説明文「どうぶつの赤ちゃん」  
(従来は2月下旬に指導)

2月 物語文「たぬきの糸車」  
(従来は1月下旬に指導)

〈2年〉

説明文「おにごっこ」(1月下旬)

物語文「スーホの白い馬」(2月下旬)

漢字の学習において留意する必要がある。

## (2) スムーズな活動を目指した間接指導の工夫

### 第1学年

自力で丁寧に読み取り、一人で活動を進めることができるよう、二つの工夫を行った。

- ① ワークシート（簡易ガイドを併用）の活用（資料1）
- ② 短冊カードと写真の活用（写真1）

### 第2学年

自力またはペアでスムーズに学習を進められるよう、二つの工夫を行った。

- ① 学習方法をパターン化させるためのガイドの活用（資料2）
- ② サイドデスクの活用（写真2）

あるくこと	におかあさんと にているか	耳のようす	目のようす	からだの大きさ	ようす
-------	------------------	-------	-------	---------	-----

【注意事項】  
① プリントにかきこみましよう。  
② がようしにうつしまししよう。（い字で、いねいにかきましよう。）  
③ しゃしんをえらんで、がようしにテープではりましよう。  
④ マジックで、なぞりましよう。  
⑤ おわったら、音どくましよう。

「簡易ガイド」1時間の流れを示すガイドではなく、間接指導時の作業手順のみを提示

しまりまの赤ちゃんは、生まれたばかりのとき、どんなようすでしろう。

【資料1】ワークシート

一人学年や読み取りの苦手な児童に有効な手段である。



【写真1】  
文に合う写真を選んで短冊作り

適度な距離を保ち、個別学習に集中できる

個別



必要な物だけを持ち寄り、すぐに活動できる



ペア

【写真2】  
サイドデスクの活用

2:38	2:30	2:20	2:07	2:00	1:55	二年
⑤ つぎの時間の学しゆうについて知る。	④ えらんだ「わけ」について話し合 い、まとめる。	③ そのあそび方をするわけを見つけ る。	② めあてをかくにんする。	☆③だんらくを音読する。 ・一人で ・二人で一文ごとに交たいで	☆まぢがいなおし、三回れんしゆう ☆こうかんして、こたえ合わせ	【おにごっこ】 4

☆教科書に線を引く。  
・あそび方（えんぴつで）  
・わけ（赤えんぴつで）

・見つけた「わけ」を紙に書く。  
・まいの紙に一文だけ書く。  
・文のおわりを「くから」になおして書く。  
・書きぬいた「わけ」の中から、一番びつたりだと思ふものをえらぶ。  
・どうしてそれをえらんだのか、一人ずつじゆんばんに理ゆうを言いながら話す。  
・二人で話し合つて「わけ」を一つにしぼる。

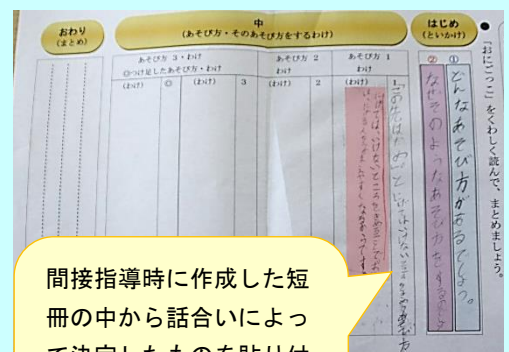
【資料2】活動時間の目安と活動内容を示したガイド

## (3) 直接指導を効率よく行う工夫

後半の直接指導においては、限られた時間内に話し合いやまとめを行わなければならない。そのため、時間を短縮しつつねらいを達成できる発表の仕方やまとめの方法を考えることが大切である。間接指導時に何をどのようにさせておくかということがポイントとなる。



間接指導時に作った短冊を、視点に沿って比較・整理しながら発表させる。



間接指導時に作成した短冊の中から話し合いによって決定したものを貼り付けて、まとめプリントを作っていく

## 4 おわりに

複式指導では教師が異学年のわたりを行うため、直接指導できる時間が各学年約半分ずつに限られている。そこで、まず直接指導で何を押さえなければならないかを明確にした上で、間接指導時の内容と方法を考えるようにすると、間接指導時に必要な指示や準備物も整えられ、指導のねらいに沿った授業展開を実現することができる。なお、作業能率など、児童の実態に応じて時間配分も変わってくるので、能力差に応じた支援の手立ても考えておく必要がある。